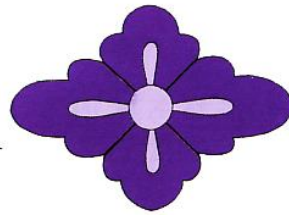




# 菩提樹

佛さまに育てられる年輪  
第8号 平成20年4月発行



編集・発行

正法寺

山口市大字江崎  
2710

TEL

083-989-2213

FAX

083-989-5339

## 尊いお念仏の ご生涯をしのんで



### 特集

第十七世眞城文子坊守様

ご往生

— 凛としたお姿を

忘れない —



# 前々坊守の往生に接して

正法寺住職 眞城 眞信



親鸞聖人が、阿弥陀仏の救いを表される言葉遣いの中に「無碍（むげ）」という言葉があります。文字通り「さわりなく」ということですが、親鸞聖人は、この言葉に二通りの意味を込めて使われています。一つは、「阿弥陀仏の救いは、どんなものも障害とせず、一切を救っていく」という意味で使われる場合です。これは、よくお説教でも諭えて使われることですが、太陽の光や月の光は、世界のいたるところに影を作ります。つまり、光の届かない場所があ

るということです。しかし、阿弥陀仏の光は、世界に届かない場所はなく、男女、老少、善悪の隔てなく一切の生きとし生けるものに届いているのです。具体的に私の上で味わえば、私の中のどんな煩惱も阿弥陀仏は障害とされないということです。これは、阿弥陀仏の救いを表されるのに一般的な使い方であり、親鸞聖人以外の多くの高僧の方々もお説きになられています。二つには、「阿弥陀仏の救いは、私の中の様々な煩惱や人生を歩む上での様々な苦難を徳に転じていく」という意味で使われる場合です。これは、親鸞聖人独特の使い方です。阿弥陀仏は、私どもを救って行くのに、ただ単に成仏の妨げとなる様々な煩惱を問題としないうことだけでなく、それらを私共の徳に転じ、浄土に生まれるにふさわしい

者に育てていくというのです。この娑婆世界を生きる上で、思いがけない苦難が度々起ります。前々坊守の九十年の生涯は、まさしく、この思いがけない苦難の連続だったのではないのでしょうか。父親の往生、前々住職の出兵、正法寺の全焼、息子さんのご往生、そして最晩年には、前住職・前坊守の往生と、一般的には考えられないほどの苦難の連続です。この他にも、表には出てこない、前々坊守にしか分からない陰の苦難も数多くあったことでしょう。多くの場合、苦勞は愚痴に変わっていきまます。「どうして自分だけがこんな目に」といったような愚痴の中で、人生に絶望し、たまたま頂いた命に何の感動もないまま、むしろ苦勞の多い人生を憎みながら生涯を終わっていくことが多いのではないのでしょうか。

しかし、阿弥陀仏の救いに預かっている方は、苦勞や苦難がそのままマイナスに働くのではなく、プラスに転じられていくのです。前々坊守の晩年のお姿は、そのことを如実に表しているように思えます。前々坊守が、入寺したばかりの私に、昔のことを語ってくださる時、そこには、多くの人々に対する感謝の言葉で溢れていたことをありがたく思い出します。苦勞を重ねるたびに愚痴が増えていくような貧しい生涯ではなく、逆に苦勞が感謝の言葉となつて、その人を支えていくような生涯は、まさしく阿弥陀仏のお心に荘嚴された尊い生涯というべきでしょう。阿弥陀仏のお心に飾られた前々坊守のあの明るさに、多くの人も導かれて、お寺にお参りされたのではないのでしょうか。

今、その尊い生涯を閉じられた前々坊守のみ跡を慕っていく大切さを、改めて、心に受けとめていきたいものです。

如来様に導かれた尊い足跡

- 大正 6 ・ 眞城徹昭様・ヌイ様の長女としてご誕生。
- 大正 8 ・ 徹昭様ご往生ヌイ坊守と文子様とでこれから十四年間正法寺を守られる。
- 大正 13 ・ 正法寺仏教婦人会創立初代会長ヌイ坊守。
- 昭和 10 ・ 右田乗園寺より正彦様入寺。文子様とご結婚。
- 昭和 12 ・ 嘉川公会堂で嘉川幼稚園開園。園長 正彦様
- 昭和 13 ・ 長男瑞洋様ご誕生。
- 昭和 15 ・ 次男 晃様ご誕生。
- 昭和 19 ・ 正彦住職応召。保育園園長代理は文子坊守。
- 昭和 20 ・ 嘉川保育園現在地移転。正彦様復員される。
- 昭和 23 ・ 三男 厚様ご誕生。
- 昭和 30 ・ 仏教婦人会会長文子坊守。
- 昭和 31 ・ 山門のみ残り、本堂・庫裡・客殿等を全焼。
- 昭和 32 ・ 寺院の復興再建に向けて托鉢行脚。
- 昭和 35 ・ 本堂完成。
- 昭和 37 ・ 俳句の集い『ひいな会』を結成。
- 昭和 39 ・ 第十七世正彦住職ご往生。
- まぼろしの 生涯過ぎぬ 菊花仏
- 昭和 41 ・ 瑞洋様住職を継職。とご結婚。
- 山内に ただよふ淑気 松の花
- 昭和 41 ・ 三男 厚様 交 通事故でご往生。
- 山茶花や 遺骨となりて 吾子帰る
- 昭和 44 ・ 次男 晃様 坂 出教専寺へ入寺・ご結婚。
- 行春や 鹿島立ちゆく 吾子に添い
- 母葬る 遂に五月雨 しぶきふる
- 昭和 46 ・ 山口市民生委員として平成元年まで六期十八年間地域のために奉仕される。
- 昭和 49 ・ お孫様 百華様
- 昭和 51 ・ お孫様 文華様
- 昭和 53 ・ 嘉川保育園園舎の新築。
- 昭和 58 ・ 即如ご門主のご巡教。
- さきがけし 梅に持らたる 昨日 今日
- 昭和 62 ・ 文子様 嘉川保育園の園長をご退任。
- 梅の賀や 長き短き 五十年
- 待望の 住き日迎かふや 初時雨 鐘が鳴る
- 平成 8 ・ 社会福祉法人百華児童苑を設立。
- 平成 12 ・ 百華児童苑大内光輪保育園の開園。園長元子様。
- 平成 15 ・ 嘉川保育園新園舎建設。
- 平成 16 ・ 本善寺より真信様入寺。
- 平成 17 ・ 第十八世坊守・大内光輪保育園園長元子様ご往生。
- 法響様ご誕生。
- 真信様 大内光輪保育園園長。
- 第十八世住職・嘉川保育園園長 瑞洋様ご往生。
- 平成 18 ・ 嘉川保育園園長 真信様。
- 平成 19 ・ 第十七世坊守文子様ご往生。

(文中の句は 文子坊守様の句です)



# 文子坊守様を偲んで

坊守 眞城 明華

あれからもう一年が経ちます。境内の桜が一、二輪、花を咲かせた穏やかな春の日、前々坊守は、静かに往生いたしました。

その九十年の生涯は、日本の国においても、正法寺においても激動の時代の中の歩みでありました。幼少期に住職であった父や祖父が次々に往生し、結婚後も住職が戦争に出兵するなど、他の坊守が経験しえない程、住職不在の時代を幾度も経験した生涯でもありました。

支えがあったことを、孫の私にもよく話してくれました。戦前戦中の日本中が貧しい時代、本堂の如来様にお供えする御仏飯が欠くことがないようにと、御門徒の方々が身を削ってお鉢米をお寺に上げてくださったこと、正法寺が全焼した時、すぐさま家中の布団を集め駆けつけてくださった方、一晩で住職の白衣を仕立ててくださった方、そして、本堂再建のためにと、身を粉にして托鉢に歩いてくださった多くの方々のことなど、時に涙を浮かべながら話してくれました。

これだけの苦渋を味わいながらも、晩年、とても柔和な顔をしておりましたのは、同じ時代を生きてこられた多くの御門徒の方々とともに、お念仏に導かれ、どんな苦難も「御報謝、御報謝」と支えあいながら生抜いてきたからでありましょう。

前々坊守が往生した今、その苦勞と、それを身を粉にして支えてくださった多くの御門徒の方々のご苦勞を偲ぶとき、正法寺の坊守として法灯を守っていくことの重責を感じずにはおれませんが、微力ながら、前々坊守のみ跡を慕い、御門徒の方々とともにお念仏のお心を味わえる坊守として努めてまいりたいと思います。



## 保育園

三輪 正子 (談)

文子先生が三十才の頃、保育園に勤めました。ゆったりとした雰囲気の中、園長先生も一緒に笑いの絶えない毎日でした。文子先生の文字が大好きで、よく真似をして練習しましたね。あの頃は働く女性が少なく二人で全員の保育をしていましたよ。色白で赤いメイセンの着物がお似合いの先生は優しいままな



で敬尊のお誕生日のお話をよくして下さいました。先生は誰にでもわけへだてなく接して下さいました。私も妹のように可愛がって頂きました。文子先生のような方には今までもこれからも出会うことはできないでしょうね。本当に有難い方でした。



## 仏婦・あそか会

玄珍 白井都師子

昭和三十一年十二月おゆうぎ会の日だったと思います。今思い出しても身のふるえる思いです。私たちの大切なお寺が全焼してしまったのです。

それから仏婦でお寺を再建しようとして文子様が先頭に立たれ東へ西へと手分けをして一軒一軒ご報謝をお願いして歩きました。また、「お内陣のお荘厳は婦人の手で」とチヨコ米運動も始まりました。三十四年に待望の本堂が完成しました。文子様をはじめ、仏婦の方々のお喜びはいかばかりだったことでしょう。

九條武子様のお話もたくさん聞かせていただきました。築地本願寺での在京門徒のつどい、越後へ親鸞様恵信尼様の御旧跡を訪ねたこと、一泊研修会に御一緒したこと等々懐かしく思い出されます。正法寺門徒のお母様、いつまでもお浄土からお見守り下さいませ。





### ひいな会

お喋りしたくて

下高根 今本英子

「句座に来て雛の客とし招せられ」客間に飾られた雛壇の前で思いがけず御馳走になった時の一句です。お菓子の「女の子っていいですね。」と嬉しそうにおっしゃったお顔を思い出します。

お寺にお伺いすると、「まあまあ、ようこそ！」とすぐ差し比べられる両手の柔らかい温かみを忘れることはありません。

お裏様。お逢いしてお喋りしたく存じます。今でも。これからも、でございます。合掌  
歩まれる浄土の苑の花辛夷



### 民生委員

下中野 風呂八千代 (談)

一緒に民生委員をさせていただきましたが、一番忘れられないのはどんな難しい事にでも「やりましょう！」と前向きに取り組まれたことです。そのことははずっと私の人生の支えにもなっています。いつもやわらかい物腰で、しかし芯にはしっかりと熱い思いを持たれ六期十八年もの間心のこもった活動をされました。また俳句にしても何でもすばらしいセンスをお持ちの方でした。文字様とのご縁は私にとっても大変ありがたいことでした。



### 保育園

藤井 桂子 (談)

保育園の五十周年の記念アルバムを共に見ながら、思い出話をいろいろ聞かせて頂きました。「文字先生は、スラッとしてとても美人で賢い方でしたね。運動会の時は、大きい声をはりあげて、よくとおる声で応援され、子供や先生方をよう誉めて下さいました。」

「又、私が保育園でピアノを弾いていると、そばに寄ってこられ、一緒に大きい声で歌を歌われました。歌はもとより記憶力が抜群によく、いろいろな事をよく知っておられました。」  
「一人で長い間、お寺と保育園を守っておられた時期もありました。何事も一生懸命の文字先生でした。」

### 保育園

石川 義子 (談)

昭和四十八年から平成三年まで、保育園の給食を作らせて頂きました。

その間、文字先生にはいろいろ教えてもらいました。「子供たちに卵を食べさせてあげて下さい。」とよく言われました。栄養のことをよく考えられてのことです。

文字先生は、お料理が上手で彩や味つけが細やかでした。とても勉強になりました。

のんびりしたいいい時代でした。文字先生は、いつも緑の下の方持ちでいらっしやいました。

お寺に同居させてもらい、朝晩のおつとめで元気が出ました。今は、お陰様で、大願力に抱かれて嬉しい喜びに、感謝しています。



### 幼なじみ

後寺内東 徳田貞子 (談)

私は文字坊守様より一歳年上で、小さい時は毎日のように一緒に遊んでいました。広いお庭で遊んでいて気が付くと大きい門が閉まっています。その時は院代さんが横の扉を開けて下さいました。

女学校時代はあまりお会いできませんでしたが、その後はお寺に参るたび心安く声をかけていただきました。「今度一升下げて参りますよ。」

と言うと「ハイハイ、お寿司をつけて待っていますよ。」と冗談を言い合ったことも楽しい思い出です。

正法寺寺族の

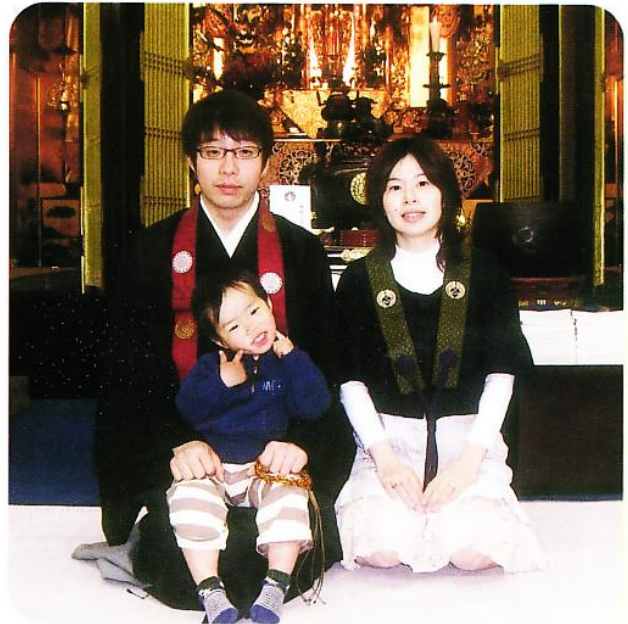
あ・る・ば・む

ゆきえ  
如恵様ご誕生

平成二十年三月四日



愛らしい如恵様の御誕生おめでと  
うございます。  
お健やかなご成長を門徒一同念じて  
おります。お寺へのお参りの楽しみがまた  
ひとつふえました。



かずなり  
法響様 (二才六ヶ月)

おはなしが上手になりました。  
お正信偈も四頁おつとめできます。



# 宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌法要 正法寺第十九世住職継職奉告法要

正法寺住職 眞城 眞信

いよいよ来年の五月三日・四日に親鸞聖人七五〇回大遠忌法要、並びに、正法寺第十九世住職継職奉告法要が厳修されます。親鸞聖人の大遠忌法要は、五十年に一度、正法寺の継職法要は、正法寺が浄土真宗に転派してから五百年の歴史を数える中で、十九度目のご縁となります。親鸞聖人が、約三十年以上の時間を要して著された浄土真宗の根本聖典である『顕浄土真実教行証文類』（略して『教行信証』）の最後には、道綽禪師の次の言葉が引用されています。「前に生まれんものは後を導き、後に生まれんひとは前を訪らへ、連続無窮にして、願わば休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽く さんが為の故なりと。」

現在、東本願寺に残されている親鸞聖人直筆の『教行信証』を窺いますと、八十五歳を超えてからも、いろいろと手が増えられていることが分かります。七五〇年間、宗祖と仰がれる天才親鸞聖人をして、八十五歳を

超えなければ分らなかった事柄が書き残されているのが、『教行信証』という書物です。最後に引用された言葉が、この道綽禪師の言葉なのです。私どもの宗祖親鸞聖人が、何を最後に願われておられたかがよく分かります。先に生まれた者は、後に生まれる者をお念仏のお心に導き、後に生まれる者は、先にお念仏の道を歩んだ方々を訪ねてほしい。そして、それが、未来永劫に亘って休止する事なく連続してもらいたい。無辺に広がる迷いの海の中で、未来永劫に亘って生きとし生けるものが苦しんでいる。その者達が、いつまでもお念仏のお心に遇える世界であってほしい。

何十年に一度の大法要は、宗祖親鸞聖人のこの願いを実現していく尊いご縁です。一年後にお迎えする正法寺での大法要、正法寺の寺族と門徒が一丸となつて、未来永劫に亘ってお念仏のお心が伝わっていく掛け替えのない仏縁とさせていただきます。う。

平成二十一年  
五月三日  
正法寺第十九世住職  
継職奉告法要  
御講師：龍谷大学名誉教授  
浅井 成海 師  
〇山口南組十五ヶ寺内陣出勤  
で厳修  
〇稚児行列を予定  
〇夜 イベントを企画  
五月四日  
親鸞聖人七五〇回  
大遠忌法要  
御講師：浄土真宗本願寺派勸学・  
行信教学校長  
梯 実圓 和上  
〇親戚寺院住職友人内陣出勤で厳修  
〇本山よりご門主のお手代わりをお招きし、正法寺堂内において帰敬式を併修  
〇法要修了後祝賀会

## 正法寺の新しい歴史の幕開け 門徒も心をひとつにして 総代一同

正法寺本堂で  
「帰敬式」を  
受けましょう

ききょうしき

伝統ある正法寺の法灯を守り新しい歴史の幕開けを寿ぐ大事な大事な大法要が迫りました。平成十七年、第十八世住職瑞洋師がご往生され、悲しみのうちに三年を経ようとしています。これから正法寺の伝統を伝え、ご法義繁盛のために、眞信様が第十九世住職としての継職をされ、内外に広く伝承されることは、正法寺門徒をあげての最も大切な法要です。一山あげての大きな法要を皆様とともに営むことができます。誠心誠意、誠にありがたいご縁と存じます。また、念仏のみを生きる道として、ひとすじに歩まれた親鸞聖人のみ跡を鑽仰すること、ご法縁に遇わせていただく身のよろこびとともに、この法要が厳修されるに当たり、正法寺の護持のためにご尽力いただきました歴史のご住職・寺族、ならびに幾多の先人の皆様、心から報恩感謝の念をささげます。この大法要は、私たちの大きな感激として、子々孫々に伝えられていくものと思います。ご門徒の皆様方には、この法要を厳修されるにあたり、いろいろな面であたたかい支援をいただき、ことと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ちこ  
稚児行列に  
多数参加を

大法要を彩るはなやかな、かわい稚児さんの行列が出ます。子どもさんたちにとってもこの法要のご縁に遇えるのは大きなよろこびです。次に、正法寺で稚児行列が行われるような大きな法要は、しばらく先のことになります。どうぞこのご縁を大事にされ、多くの稚児さんでお祝いしていただくようお願いいたします。

平成十九年度

# 法縁・法友あれこれ

公開講演会

第25回 平成19年9月1日

講師 青木 新門氏  
(作家)

演題 「いのちのバトンタッチ」



プロフィール

葬式の現場での体験を「納棺夫日記」として著しベストセラーとなり全国的に注目される

## いのちのバトンタッチ

人は必ず死ぬから いのちのバトンタッチがあるのです  
死に臨んで先往く人が「ありがとう」と言えば  
残る人が「ありがとう」と応える そんな一瞬のバトンタッチがあるのです 死から目をそむけている人は 見そこなうかもしれないが  
そんないのちのバトンタッチがあるのです 合掌

合掌

## 日曜学校

日曜学校修了式

今年もみ仏様とともに約40組の親子が楽しく集いました。



## 若婦人会活動



10月13日 おいしいお茶の入れ方講座



7月7日 仏華生け方講座



6月16日 浴衣着付け講座

## 役員紹介

総代会会長

松村哲男さん



仏教婦人会会長

伊藤達子さん



仏教壮年会会長

泉 専六さん



## あとがき

前号に続き、追悼特集となり寂しい限りです。  
文字坊守様のお念佛に生きぬかれたご生涯は、私たちに身をもって示してくださいました。尊いお姿でつつ私たちも精一杯生きぬいていきたいものです。

合掌